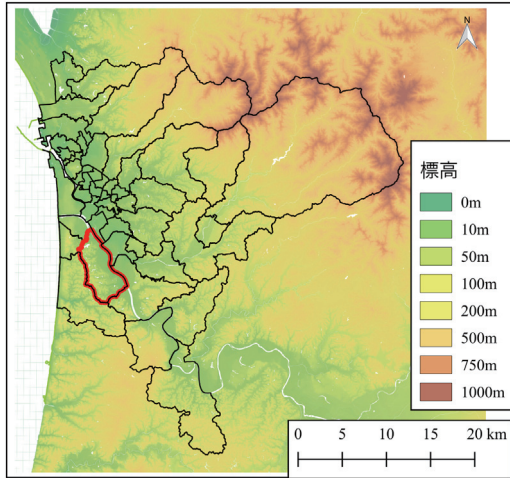
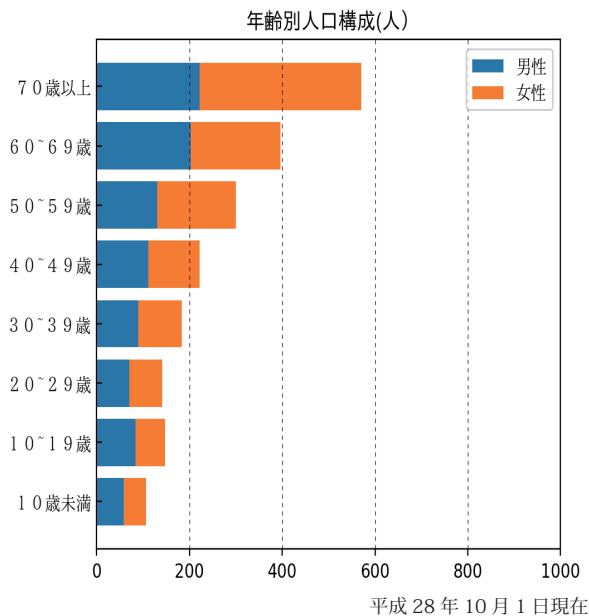


## 位置図



## 1 居住者の現況

|          |         |
|----------|---------|
| 人口       | 2,066 人 |
| 世帯数      | 694 世帯  |
| 65 歳以上人口 | 780 人   |
| 10 歳未満人口 | 106 人   |



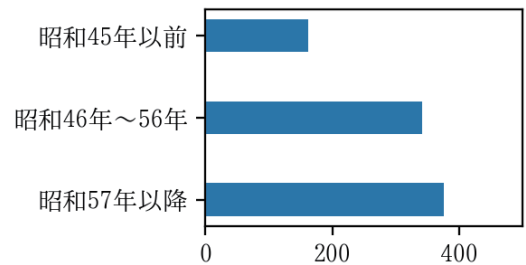
## 2 建物に関する指標

## ■ 構造別建物棟数(棟)

|       | 棟   |
|-------|-----|
| 木造建物  | 880 |
| 非木造建物 | 48  |

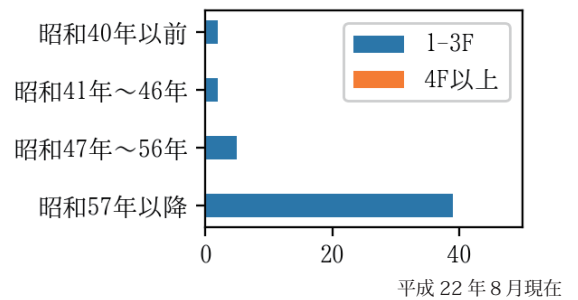
## ■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

|           | 棟   |
|-----------|-----|
| 昭和57年以降   | 376 |
| 昭和46年～56年 | 342 |
| 昭和45年以前   | 162 |



## ■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

|           | 1-3F | 4F以上 |
|-----------|------|------|
| 昭和57年以降   | 39   | 0    |
| 昭和47年～56年 | 5    | 0    |
| 昭和41年～46年 | 2    | 0    |
| 昭和40年以前   | 2    | 0    |



## 自然的・社会的基本指標

秋田市南部の雄物川左岸(西側)沿いに位置している。雄物川沿いの東部は平坦な地形であるが、西部は国見山に連なる山地となっている。がけ崩れ等の土砂災害の危険性がある場所が多数ある。山間地には大小の堤(農業用ため池)が築かれている。集落は、山地と平野部の境界付近を通る県道寺内新屋雄和線に沿って点在している。人口構成は、高齢者層ほど比率が高くなっており、特に65歳以上は全体の38%を占める。建築物全体的な棟数は少なく、そのほとんどが木造建築物である。建築物全体の65%は昭和56年以前の建築である。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

|           |       |  |  |
|-----------|-------|--|--|
| 指定河川      | 雄物川   |  |  |
| 浸水面積 (%)  | 20.3  |  |  |
| 最大浸水深 (m) | ランク 4 |  |  |

■ 土砂災害

\* 土砂災害危険箇所

|            |     |                                             |
|------------|-----|---------------------------------------------|
| 種別         | 箇所数 | 主な指定箇所                                      |
| 急傾斜地崩壊危険箇所 | 12  | 上野、山口、豊岩居使、内縄尻、豊岩杉ノ下、中沢、豊岩前郷、狐森、下浜八田、鳥屋ヶ沢 他 |
| 土石流危険渓流    | 31  | 中山沢、杉ノ下沢、縄尻沢、館腰沢、鳥屋沢沢、赤坂沢、鳥屋ヶ沢沢 他           |
| 地すべり危険箇所   | 1   | 豊岩居使                                        |
| なだれ危険箇所    | 8   | 杉ノ下、大日沢、下浜八田 他                              |

\* 土砂災害警戒区域

|                    |     |                             |
|--------------------|-----|-----------------------------|
| 種別                 | 箇所数 | 主な指定箇所                      |
| 土砂災害警戒区域           | 13  | 杉ノ下沢 1、2、縄尻沢、内縄尻、豊岩杉ノ下、中沢 他 |
| うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの |     |                             |

■ 地震および津波

\* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

|                   |        |  |
|-------------------|--------|--|
| 平均震度              | 震度 6 弱 |  |
| （計測震度）            | （5.80） |  |
| 震度 6 強以上となる面積 (%) | 10     |  |
| 液状化危険度ランク         | 5      |  |
| 建物全壊率 (%)         | 4.5    |  |

\* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合）

|           |     |  |
|-----------|-----|--|
| 浸水面積 (%)  | 0.1 |  |
| 最大浸水深 (m) | 2.9 |  |

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

|         |     |
|---------|-----|
| 種別      | 施設数 |
| 高齢者支援   | 3   |
| 婦人幼児支援  | 0   |
| 障がい者等支援 | 0   |

■ 幼稚園・保育所等

|      |     |
|------|-----|
| 種別   | 施設数 |
| 保育所等 | 0   |
| こども園 | 0   |
| 幼稚園  | 0   |

■ 学童支援施設

|      |     |
|------|-----|
| 種別   | 施設数 |
| 児童館等 | 1   |

■ 学校等

|          |     |
|----------|-----|
| 種別       | 施設数 |
| 小学校      | 1   |
| 中学校      | 1   |
| 高等学校     | 0   |
| 大学・短大・高専 | 0   |
| 養護学校等    | 0   |

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

|           |     |
|-----------|-----|
| 消火栓数（箇所）  | 37  |
| 防火水槽（箇所）  | 13  |
| 消防車台数（台）  | 11  |
| 消防ポンプ数（台） | 5   |
| 消防団員数（人）  | 134 |

■ 避難所／避難場所（別表参照）

|          |     |
|----------|-----|
| 災害種別     | 施設数 |
| 洪水       | 1   |
| 土砂災害     | 2   |
| 地震       | 4   |
| 津波       | 0   |
|          |     |
| 福祉避難所    | 0   |
|          |     |
| 津波避難ビル   | 0   |
| 津波警報サイレン | 0   |
|          |     |

■ 救急・防災関連施設

|               |         |
|---------------|---------|
| 種別            | 名称／箇所数  |
| 管轄消防署         | 秋田消防署   |
| 管轄警察署         | 秋田中央警察署 |
| 病院・医院数（歯科を除く） | 0       |
| 最寄りの救急告示病院    | 秋田赤十字病院 |
| 自主防災組織数       | 14      |

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により、学校区内のほぼすべての平地部が浸水（最大で 5m 未満）すると想定されている。

学校区全体に渡って、平地部と山地部との境界付近の斜面で土砂災害の危険性が指摘されており、そのうち 13 箇所（急傾斜 6 箇所、土石流 7 箇所）が警戒区域等に指定されている。地震動としては、学校区北部の一部（石田坂地区）の平地部でやや強い揺れとなると見込まれるが、その他の地区ではほぼ同様の揺れ安となっている。液状化の危険性は高い。学校区北部の一部では津波による浸水の恐れがあると想定されている。

防災上の課題と対策

豊岩小学校区では、県道寺内新屋雄和線沿いに集落が点在している。土砂災害の危険性のある箇所が県道沿いに多く指摘されている。災害時の物資輸送、負傷者の搬送では県道が主要な役割を果たすものと考えられ、災害時の交通の確保が重要であり、県道が使用不能となった場合について

も検討しておく必要がある。

65 歳以上の人口比率が高く、家族だけでは災害時に十分な対応ができない可能性があり、集落を単位として近隣住民の協力が必要となることも考えられる。防災訓練等の機会に近隣住民同士の協力関係を構築しておく必要がある。洪水及び津波により浸水する恐れがある学校区北部では、

隣接する日新小学校区内の避難施設を利用することも考えられる。町内会や集落単位で避難の方法や経路などについて、両学校区の災害特性を踏まえた自主避難計画を検討し、避難訓練などによりその実効性を確認するなどの防災行動が望まれる。

#### ■ 避難所・避難場所

| 施設                          | 指定避難所 | 緊急避難場所        |              |    |    |       | 収容人員    |
|-----------------------------|-------|---------------|--------------|----|----|-------|---------|
|                             |       | 災害の種類（○のみ利用可） |              |    |    |       |         |
|                             |       | 洪水            | がけ崩れ/<br>土石流 | 地震 | 津波 | 大規模火災 |         |
| 下浜八田地域運動広場<br>(旧八田小学校グラウンド) | x     | ○             | ○            | ○  | x  | x     | 2,030 人 |
| 豊岩地区<br>コミュニティセンター          | ○     | x             | ○            | ○  | x  | x     | 48 人    |
| 豊岩小学校グラウンド                  | x     | x             | x            | ○  | x  | x     | 2,125 人 |
| 豊岩中学校（体育館）                  | ○     | x             | x            | ○  | x  | x     | 218 人   |

#### 福祉避難所

| 施設     | 所在地 | 電話番号 |
|--------|-----|------|
| (該当なし) |     |      |

#### 津波避難ビル

| 施設     | 所在地 | 利用可能範囲 | 収容人員 |
|--------|-----|--------|------|
| (該当なし) |     |        |      |

#### 津波警報サイレン

| 施設     | 所在地 |
|--------|-----|
| (該当なし) |     |

